

#### 第四次海士町総合振興計画 島の幸福論-海士ならではの笑顔の追及-について

第四次海士町総合振興計画の策定においては、海士町の未来をつくる会の開催などによって、多数の住民が海士町の将来について語り合いました。その結果、私たちは、今や都市部では手に入れることができなくなった多くのことを大切にしたいと気づきました。海士町では、豊かな自然と調和した美しい風景、深い歴史を受け継ぐ地域文化、助け合いの精神がある地域社会、確かな技を持ち顔の見える仕事、新鮮で安全な食べ物、ゆったりとした時間や空間などを大切にしていきたいと考えています。

テーマである「島の幸福論」は、島だからこそ大切にしたいことを、住民一人ひとりが認識し、その実現のために行動を起こしていくことを表しています。また第三次海士町総合振興計画のテーマであった「キンニャモニャの変」で変革を起こした後は、「島の幸福論」として筋道立てて考え実行していくという意味も込められています。

サブタイトルである「海士ならではの笑顔の追求」は、海士町に住んでいるからこそ生まれてくる笑顔を大切にすること、笑顔が生まれた理由を見つけ出して広げることなどを表しています。

海士町は、今後10年かけて島ならではの幸せを追求し、住民一人ひとりが幸福を実感できる社会を目指します。

#### 第四次海士町総合振興計画 別冊 海士町をつくる24の提案

第四次海士町総合振興計画においては、行政施策の指針としての本計画書に加え、住民一人ひとりが主体的にまちづくりに関わるための「第四次海士町総合振興計画 別冊 海士町をつくる24の提案」をまとめています。住民提案集では、未来をつくる会の「ひと」「産業」「暮らし」「環境」の4つの視点から、海士町の生活者の視点からの課題を解決するための24の「まちづくり具体案」が述べられています。各具体案は、1人でできることから10人、100人、さらには1000人の力を合わせてできることに分けて示しながら「みんなでまちづくりに取り組みましょう」と呼びかけています。物質的な豊かさと先の見えない不安が背中合わせの時代だからこそ、これからのまちづくりには「住民の幸せの追求」が重要だと考えました。住民一人ひとりがまちづくりに参加し「海士町に住む幸せ」を実現するためにはどうしたらいいのか、この本はそのガイドブックの役割を担っています。